

# 川島G、売上高過去最高

## 前期 金属価格高騰追い風

非鉄総合商社、川嶋（本社＝浜松市、川嶋一義代表）を中心とする川島グループは、2026年3月期の連結業績（速報ベース）が増収増益になることを明らかにした。売上高が過去最高の約1500億円、経常利益が65億168億円になる見通し。金属価格高騰を追い風に金属・貴金属事業が堅調推移したこと

などが背景にある。グループとして海外展開を本格化するため2月に上海に駐在員事務所を設置。グループ一体化戦略も一段と加速し、中長期を見据えた成長を目指す考えだ。同グループの連結決算は、グループ各社の決算時期に差異があるため売上高、経常利益ともに概算での計上になる。売上高は前期の

1080億円から約1500億円に増収し、経常利益は同52億円から65億168億円に増益した。金属事業ではアルミ価格の高騰などを追い風に収益が拡大。サーキュラーエコノミーの意識の高まりで、アルミスクラップのアップグレード事業なども堅調に推移している。貴

金属・レアメタルなども金が史上最高値を更新するなどの背景を受け、堅調に推移した。非金属事業ではゴルフやシニアカーなどの事業が安定した事業内容を見せ、収益に貢献を果たした。27年3月期は中東情勢の悪化で不透明感が強く、売上高、経常利益ともに今期並を予測している。海外展開の本格化も

進めていく。その一環として中国・上海にグループの中核企業である川嶋の駐在所を2月に設置し、市場調査を進めていく。グループで経営を積んだ現地スタッフを駐在させ、ローカル企業とのネットワークを広げていく。ベトナムでも現地企業と連携してアルミニウム合金の事業拡大を目指す。川島グループとしてのブランド構築も一段と加速する方針を打ち出す。前期には浜松駅の新幹線ホームに広告の掲載を開始。今期はさらにグループとして総合力や一体感を構築できるような戦略を推し進めていく考えだ。